

Chapel News

2008年5月 3

「孤独のとなりに神がいる」

小説『氷点』『塩狩峠』などの作品で名高いクリスチャン作家である三浦綾子(1922 - 1999)の随筆集『孤独のとなり』には、以下のような文章があります。

まわりにいくら人がいても孤独を癒やすことはできない。私はこうした孤独の生活を何年か持った。だが幸い、遂に私はその孤独の淵から立ち上がることができた。立ち上がらせてくれたのは、私の場合、イエス・キリストの父なる神であった。

自分が孤独だと思っていた時、実はすぐそのとなりに神がいたのである。私はただ、目をかたくなにつぶって、となりにいる神の存在を知らなただけなのだ。

神を信ずるようになって以来、私は明らかに変わった。外目にはどう映ったかわからないが、私の心の、癒え難かった孤独の病は遂に癒えた。...信仰を得て以来、私はほとんど孤独に悩まされることはなくなったのだ。

それは、真の神と対することを知ったからだ。祈ることを知ったからだ。自分のすべてを知ってくださる神の視線を感じるからだ。私はもはや、一人ではないのだ。

孤独で荒んだ生活も体験した三浦綾子にはまた、三浦光世という生涯のパートナーが与えられました。彼女を救ってくださったイエス・キリストの父なる神との出会いは、礼拝を中心とするこの聖学院大学での共なる学びと奉仕の日々の様々な場面において、みなさんにも用意されています。

(人文学部副チャプレン 柳田 洋夫)

年間聖句

「また、よく言うておく。もしあなたがたのうちのふたりが、どんな願い事についても地上で心を合わせるなら、天にいますわたしの父はそれをかなえて下さるであろう。」 (マタイによる福音書 第18章19節)

春のキリスト教週間のご案内

【5月21日(水)】キリスト教映画会(対象:1年生)

映画:『氷点』
時間:10時40分~12時30分

【5月28日(水)】キリスト教講演会(対象:2年生以上)

講演:三浦光世氏(三浦綾子記念文学館館長)
時間:10時40分~12時15分

両日とも、会場は聖学院大学チャペル。

キリスト教と諸学の会

日時:5月21日(水) 17時30分~18時50分

場所:4401教室

発表:小池茂子先生(児童学科准教授)

「キリスト教系中学校及び高等学校に在籍する生徒の道德意識の現状とその背景(生育歴・親との関係・キリスト教学校教育等) 2005年に実施したアンケート調査結果を中心に」



プレリトリートのお知らせ

プレリトリートではテーマにそってディスカッションをしたり、お食事をしながら楽しい交わりの時をもちます。

日程:5月16日(金)4限終了後~
場所:チャペル&エルビスホール、他
テーマ:「手を取り合って」
参加費:500円

お申し込みはキリスト教センターまで

